大津町議会文教厚生常任委員会と
町の歴史文化に関心・ご意見をお持ちの住民との意見交換会　会議録

１．日時　　令和３年１１月１１日（木）午前１０時００分
２．場所　　役場２階　町民協働ルーム
３．出席者　（大津町議会側）６人
　　委員会　　豊瀬委員長　山本副委員長　三宮委員　大塚委員　田代委員
　　議会事務局　大塚次長

　　（住民側）１３人
　　氏名省略

　　（町執行部等）６人
　　矢野健康福祉部長、羽熊教育部長、（生涯学習課）紫藤係長、高野学芸員、飯冨学芸員、地域おこし協力隊川野氏

４．議題　①　生涯学習課より現況説明
・文化の振興、文化の調査、文化の保全・継承の３つを柱に文化財関係の事業を行っている。
・文化の振興：文化財に関する情報発信と講座開講による人材育成など。R2 は学芸員や文化財保護委員を中心に町内の地蔵の研究を行い、伝承館や図書館で展示。スポーツ係と連携し文化財を巡るフットパスなどを企画。
・文化の調査：古文書の研究、開発に伴う埋蔵文化財の試掘、文化財の指定など。
・文化の保全・継承：指定文化財の維持、発掘された文化財の保存、各種文化保存団体への補助など。R2 は光尊寺の石橋の地震からの復旧事業、江藤家住宅の復旧事業などを実施。
・今後の展開：気軽に文化財に触れてもらえるような PR や人材育成が課題。魅力的な講座の開講、SNS やホームページでの文化財に関する情報発信や、学校と連携し、住んでいる町の良さを知ってもらえるような機会の提供にも取り組む。
観光やまちづくりの施策と共に文化財を PR していくことで、少しでも多くの方に興味を持っていただけるような取り組みを考えている。
町にある文化財を活かした学習の場の創出とまちづくり、人材育成に重点を置いて事業を実施していく。

議題　②　意見交換
住民：町の歴史を語る上で上井手や藤原式水車は外せない。水車は文化財か。藤原式水車は技術的にも優れているため、それを後世に伝える取り組みをお願いしたい。
執行部：現在は国や町指定の文化財ではない。今後調査をしたい。
住民：藤原式水車以外にも、北部地域には江戸時代後期から続く歴史ある水車がある。

後継者の方は、行政から支援などの話が聞かれないことから、今後に不安をお持ちのようだ。その水車を残すための支援は北部地区の振興策にもなると思うが、北部や南部への振興策が十分に行われていないことには日頃から問題意識を持っている。町としてもっと熱意を持って取り組んでいただきたいというのが地元住民としての思いである。

執行部：水車を残していきたい考えはあるが、水を流しても使わない、農業用水としての利用もない時代になっている。行政から全てを支援することはできないため、水車を回さなければならない状況を周囲が作り出す必要もあるのではないか。

委員：現代社会では水車の活用は難しいかもしれないが、文化的・歴史的な価値からそれを保護する必要はあると思う。

住民：昭和６３年発行の大津町史にも、町内に１００か所以上あった水車のことが書かれているため、水車が多くあった理由なども含め、興味のある方は見てほしい。

住民：水車に関する意見が出ているが、意見の違いがあるのは当然のことで、各論に入ってもなかなか進まない。まずは今回のような会が議会と住民が町の歴史や文化について色々なことを話し合うきっかけになれば嬉しい。

住民：上井手を含む水路などが世界かんがい施設遺産となったが、防災面強化の整備などにより、上井手の歴史的な景観が損なわれているようで残念に思っている。R4.4 に熊本市を会場としてアジア太平洋サミットが行われ、県内を視察されるとの新聞記事を見た。地元住民で上井手の清掃活動にも取り組んでいるが、町も私たち住民も含め、上井手周辺の整備について考えなければならないのではないかと思う。

住民：世界かんがい施設遺産に登録されたことをきっかけとして、町の事業で、住民が主体となり「おおづ水ぎわ散歩」という上井手周辺の散歩コースや町の歴史、飲食店の割引券などを掲載した観光パンフレットを作成したが、コロナ禍により正式にリリースできていない。早く活用してもらえる状況になればと思っている。

住民：県が修学旅行のプログラムとして、熊本での水の学習プランを打ち出した際、世界かんがい施設遺産になった白川流域にある大津町が着目され、県の観光協会から町へ修学旅行のプログラムができないか打診があった。おおきく土地改良区ほか関係機関が集まってプログラムを作成したが、コロナ禍で立ち消えとなっている。

住民：これまでできていなかったのは協働ではないだろうか。行政が持っている力と民間が持つ発信力などを協働の形にして町内外に発信し人を迎え入れる仕組みがなく、民間は民間、行政は行政で取り組んできた結果として、それぞれの発想は良いがなかなか結果に結びつかなかったことがあるのではないか。今回の意見交換会が協働に向けた一歩になればと期待している。私たちも努力していきたい。

住民：町外から転入してきて町内の色々なところを訪れているが、様々な団体が歴史文化保存のために頑張っておられる。しかし、町の十分なバックアップがあるようには見えない。様々な団体や歴史のある建物、橋、町特有の施設などをもっと行政が PR する必要があると思う。また、住民によるボランティアガイドの育成や、塘町筋などの良い場所を空き家の活用により盛り上げるような取り組みも検討願いたい。

住民：熊本地震後、北側復旧道路の建設に伴い、地元では清正公道の発掘調査などが行われた。熊本地震の状況や復旧道路ができるまでの経緯が分かる説明版や記念碑があれば、町の歴史がより分かるのではないかと思う。

住民：歴史文化遺産としての価値か、安全安心か、何を中心に整備を考えていくのか。今後どういう視点でまちづくりを進めていくか、という重要な課題がここにはある。歴史文化かおる、歴史文化に触れ合いのある魅力的な大津町を協働で作っていく出発点。町にお願いするだけでなく、アイデアを出し合いながら一緒に考えていこうではないか。

住民：町の歴史について伝承館で勉強会を開催してはもらえないか。

執行部：文化財学習の講座は定期的に開いている。多くの方にご参加いただけるようにもっと PR していきたい。

委員：若い方やこれまで参加されたことのない方も、気軽に参加できるような PR 方法や講座の内容にしてほしい。

住民：歴史文化ガイドの育成は重要だと思う。近隣の事例を学んではどうか。ガイドがあることを広報することで魅力の一つとなる。民間の関わりと行政のサポートがバランスよく進めばうまくいくのではないだろうか。

執行部：伝承館の運営については、今後より一層活動が見える形にするとともに、講座についても広く参加していただけるような内容を検討していきたいと考えている。講師として協力いただくなど、協働の形でも事業展開できたらと思う。

住民：伝承館の情報は、生涯学習情報誌である程度発信されていると思うが、町の文化財の PR のためには今のスペースでは足りない。駐車場も課題である。

住民：伝承館と図書館が連携し、図書館で展示が行われていた。今後も続けていただくことで、町の歴史や伝承館に興味を持ってもらうきっかけになると思う。新庁舎のロビーにも展示はできる。工夫してほしい。

住民：継続的に今回のような場を設けていただき、共に町のために考えていけたらと思う。

住民：水車の話にしても、上井手の話にしても、それによって町の文化や産業がどのように発展したのかを後世に伝えていくことが大事であると思う。歴史文化を子どもたちにつなげ、故郷に誇りをもってもらえるような取り組みを共に考えていきたい。職員や議員さんにも、町の歴史文化についてもっと知っていただきたい。

住民：今回主に出た意見が文化の調査と保全・継承に関することだったが、まずは人に来てもらうために町の魅力をどう伝えていくか、という視点が重要な部分であると思うため、今後機会があるならばそこを論点にしても良いのではないかと感じた。

委員：ご意見を聞いて課題を把握し、今後どう発展させていくかが重要と認識している。４００年の歴史のある町はそう多くない。もっと町の歴史文化を知っていただけるような取り組みをしていきたい。

委員：まず町の文化歴史をしっかりと勉強していきたい。

委員：今後も色々なお話を聞きながら、町のためにどういう取り組みができるか自分でも勉強していきたい。

委員：生涯学習だけでなく様々な分野で横断的な検討が必要だと感じた。

委員：今後も地域からの色々な意見を聞いていきたい。

５．閉会　午後０時０２分